

紀要第五号の発刊にあたって

学長 河井 秀夫

大学の使命は、教育、研究そして社会貢献の三つです。三つの使命の一つでも欠ければ、果たして大学なのかと疑問視されるでしょう。どの使命もバランスよく評価される活動が必要です。

紀要に研究成果を投稿することや、この一年間の仕事を各人が振り返り、活動をまとめることは有意義であり重要です。過去一年間で目標通りに達成できたこと、やれなかったことなどすべてを評価検討して、次への新たな目標を立案し行動するのです。出来なかったこと、やれなかったことを悔やみ悩むよりも、わずかなことでも出来たことを新たな出発の一步として、前に踏み出す勇気をもつことです。

現在、大学を取り巻く状況は少子化の影響もあり、厳しさを増しています。大学教員が教育に取り組まなければならない時間は膨大なものでしょう。多数回行われる **Open Campus** を含めた学生募集、多数回の入学試験、入学した学生に対する教育、とくに学生の能力に応じた、きめ細かな対応、教育支援、実習指導などや卒業率の向上を目指す取り組み、そして無事に卒業できても合格しなくてはならない理学療法士および作業療法士国家試験などなど、いずれも手抜きが許されません。しかし、教育に時間がかかりすぎるからと言って、大学人は研究心を失ってはなりません。概して、研究活動が旺盛な教員ほど、教育を受ける学生にとっても魅力的に感じられるものであり、常に研究心を持って活動することが良い教育者の条件の一つであると考えられます。

平成 21 年 10 月に学長として赴任後驚愕したことは、現在、大学を含めた高等教育が学生の基本的能力の乏しさなどを含め重大な問題をかかえており、今のままで高等教育が推移すれば、社会力が衰退しかねない由々しき状況にあることを知ったことです。しかし、問題点だけを嘆いてばかりいても何ら解決はしません。必要なことに対しては行動し、新たな展望を開くことです。劇的に変わった姿を見せることです。

不透明で楽観を許さない時代であるからこそ、小規模単科大学であることの利点、強みを発揮して、唯我独尊的な素晴らしい研究活動、教育環境の構築を目指して、大学教員一人ひとりが、日々、前向きに精進されることを願っています。